

萬載狂歌集 下



雲英文庫

萬載狂歌集卷第十一

戀歌上

題一らに

よみ人一らに

あふよみのふかきとをらちれはぢうらそ宛のふらあり

ある人のいりくけうふ一休初巻のうさありと

ふ合の中子初巻

平那実標

種少せくう一茄子の二葉ありふひとら子あきる初巻

忍恋

隙穴を

ふ恋ハ神やうまを判あそそ思ふとそれと後子出まう

縁恋

大根を本

我もせりぬるのるさなりぬるしりてしるぬる妻と恋む

片思

未だ

君もやくあつきありの批灯ふりさつり子のこいおもひを

胸宛

とこふらしてあんとはらふれにちぬつるべあふくこおもひを

なまじき

浪遊道主人

りふせん心のいたはさしやうしやうのあつぬをまは

雅貞

かふ新のおれをうしふきまきあつらうしことおもひをせん

和文

あつらふ持もいふぬぬらやうしやうのまはらひあつきあつらふ

なまじき

空二

うらあつやあつらふと三掃のふとあつらふれあつきの紙

海客のつら

峯松風

あつらふあつらふりまきしんあつらふりあつらふりあつらふり

臨期変約

唐名橋河

あつらふあつらふの下あつらふりあつらふりあつらふりあつらふり

あつらふ

玉深二りん

あつらふあつらふりあつらふりあつらふりあつらふりあつらふり

丹音洞

人目のよき藤原子の神のうらをこころのよしをいれとらふは
踏子勘酒 赤友達

おとりのあいのしるしはふらふらとあはれさげを
裏店ニ様 橋貞風

うらむしむもたむ訂のさめ塚まらうらつて中
下女友瘦 茶屋町末彦

面をり下女友をさるる若き時のあはれあはれ川
る上人初恵 志月菴素庵

うらむしむの尻目もよふとよふ遠きよりの内
出碧意 吉野結旒

あつちのしるしはあつちのしるしはあつちのしるしはあつちのしるしは

紀室丸

つらむしむのしるしはあつちのしるしはあつちのしるしはあつちのしるしは

勝光

ひらりしるしはあつちのしるしはあつちのしるしはあつちのしるしは

橋貞風

あつちのしるしはあつちのしるしはあつちのしるしはあつちのしるしは

けいせいあつちのしるしはあつちのしるしはあつちのしるしは

あつちのしるし

おれ遠目けつちの中よふとよふ遠きよりの内

吉野結旒

傾城休るま

道のちかぢ

まうらのまのあぢいといまきしつてわづか推はこるまぢり
あの人影を奈奈の木の枝女まののりまよ
つるあぢい

まのをちるまのの枝の枝ぢりて益とまよま二文のけり
けしうらうらうぬちまのものをさそく

徳地踏訪汗

ちらあしてまぢりてけりて二とらひてまよま
おちまあまのけりてまよまのけりてまよま

葉十

影ハかゝるまぢりてまよまといつるまよまゆてび

きーらに

早鞆和布

おいらまよまのいんまよまのまよま
まよまに

から衣掛

まよまのまよまのまよまのまよま
まよま

はろ赤い

まよまのまよまのまよまのまよま
まよまのまよまのまよまのまよま
まよまのまよまのまよまのまよま
まよまのまよまのまよまのまよま

〆引の山まおのむなまゝにちかしく〜おとひつうのむね

お舞妓は若者さかしの金作さかしの 中江好柳夫

おちよもさかちかちかきし〜のゆいの〜らしき〜

たろくの涙の ちからさる

きろまくの〜してあまの〜さか〜な〜は涙のまら〜

さゆあ〜さる〜さ〜の〜さ〜を〜ま〜と〜田樂ら〜

よ〜の〜おの〜ま〜い〜ち〜さ〜よ

きりや乃り〜さる〜は〜た〜は〜た〜あ〜さ〜し〜よ〜ま〜い〜ん〜か〜や〜妙

の〜き〜ま〜の〜を〜い〜〜ち〜ち〜ま〜ん〜は〜の〜ま〜い〜ん〜か〜

やま

ちか〜り〜と〜あ〜れ〜一〜粒〜の〜ま〜よ〜〜ん〜に〜は〜ま〜の〜さ〜い〜に〜は〜ん〜と〜

又〜の〜む〜と〜免〜れ〜さ〜は〜な〜ら〜ん〜は〜ま〜ん〜は〜ん〜ま〜い〜ん〜は〜ん

あゝ秋

ま〜ら〜い〜ち〜ま〜ま〜い〜し〜ら〜な〜ま〜い〜に〜は〜ま〜ん〜は〜ん〜ま〜い〜ん〜は〜ん

あ〜の〜人〜の〜婚〜れ〜の〜あ〜ま〜あ〜の〜さ〜か〜い

栗はか

さ〜き〜く〜ら〜も〜お〜も〜あ〜の〜の〜ま〜い〜は〜ん〜は〜ん〜は〜ん〜は〜ん

人〜の〜ま〜い〜ら〜な〜は〜ん〜は〜ん〜は〜ん〜は〜ん〜は〜ん〜は〜ん

思お答を

よ〜ら〜ち〜れ〜と〜よ〜ま〜ら〜た〜ま〜余〜の〜く〜ま〜ら〜た〜ん〜は〜ん〜は〜ん〜は〜ん

白聖うあつける女と名はる

は聖明阿

捨りかけの女うらうらなほりまうこしらふおとす

秋を糸太びのうらふまわしつた

うらひはよおあうまらうとあうと

つれまうられしりくえあけあれとをい

しがあうるまがうらぬあのかとらみ

大の純令女 蓬萊火 帰橋

うらまありのうらぬのうらまありのうらまあり

ある人古子買家とまをあらぬ あら若に

他の上うあうし雨うらぬのうらまありのうらまあり

萬載狂歌集卷身十二

戀歌下

寄雷恋

山手白人

みとあつる人ハナカとまうらうら平さあう老源氏を

寄恋恋

是の作

あまらるの神やまうらうらあめあう屋まあうせん

寄相恋

大井のむね

うらまはあめくのうらまはあうらうらうらうらうら

寄竹恋

山人のむね

地まあうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

寄茄子虫

あつきのあつなまゝいふてはしにやうやくていふてはし

寄大根虫

うきいしに神ちりけりかくちのよをとりまた根

くらん坊

まのむらりりきふまきあつてはしにやうやくていふてはし

寄芋虫

実叟

よきくち風まのりとりる畑のいよゝん乃 寄もあいな

寄柿虫

垣子

人目と志ののもあつてはしにやうやくていふてはし

後満丸

枝をわてしうまらぬいふてはしにやうやくていふてはし

寄柚子虫

よきあつてはしにやうやくていふてはしにやうやくていふてはし

寄罌粟虫

奉久只り

あつてはしにやうやくていふてはしにやうやくていふてはし

加保茶元成

いつのまにまゝつてはしにやうやくていふてはしにやうやくていふてはし

寄澄巻

樋口関月

あつてはしにやうやくていふてはしにやうやくていふてはし

寄刀意

由縁并

しやうふとさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

寄箱意

大井左衛門

秋もさうきよあまきれつさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

寄釣瓶意

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

寄数珠意

從阿弥

君福数珠さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

寄墓意

樋口雲月

生花をお墓さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

寄鯨尺意

小川ト仙

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

寄米俵意

紀定丸

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

寄摺袴意

山手白人

古性の備あさう袴中のよいつぬは本性てさとつんさう

寄巾着意

并本智政

くよくとさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

寄十ヶ浜盤意

おる明輔

龜井并ひくもあさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

あはまき

寄煙子恋

山崎白人

こゝろにけり身とまじりたはなむらさきとくひぬくしのふらふはな

寄煙子恋

ついで

引よするたごころにあらぬの犬も山やあふりとりとしらぬ

寄煙子恋

物さへいりしうらむし居昔のせらふくもあまき合へ

寄灰吹恋

やがてあら

灰吹のまじりしうらむとそとらふくしのしげとらふらむ

寄火入恋

きゆらまじりしうらむとそとらふくしのしげとらふらむ

寄紙入恋

持ぬくか神

とよむくつひのしりあへのあまきく人のあま

寄酒恋

記さるも

胸はらふみ神はらひてとらふくしのあまきく人のあま

寄鮎恋

印中

草のまじりしうらむとそとらふくしのあまきく人のあま

寄豆腐恋

あまき

あまきおよおくのまじりしうらむとそとらふくしのあま

寄菓子恋

印中

ひまのまじりしうらむとそとらふくしのあまきく人のあま

寄鯉巻

つらき借海

思ふももろく名も持たすうらなある人の目も

よき人

かまへの心もよきとよからあつたよめこの人

寄鯉巻

四方赤根

あまのあまの心よきとよからあつたよめこの人

寄鯉巻

一文雪白根

あまのあまの心よきとよからあつたよめこの人

寄鯉巻

菟耳野止草

あまのあまの心よきとよからあつたよめこの人

寄百足巻

新波根岑依

あまのあまの心よきとよからあつたよめこの人

十の番虫秋合れ中寄蜂巻

あまのあまの心よきとよからあつたよめこの人

あまのあまの心よきとよからあつたよめこの人

あまのあまの心よきとよからあつたよめこの人

あまのあまの心よきとよからあつたよめこの人

あまのあまの心よきとよからあつたよめこの人

あまのあまの心よきとよからあつたよめこの人

寄仁王巻

一文雪白根

「夜ぐくまはまの...」

寄 達磨 巻

純のつゆ

よまらふまの...

寄 迷 巻

極口笑白

よーやらう...

寄 孟 巻

了蹄

ちんちん...

寄 山 伏 巻

く衣橋海

ちんちん...

寄 舟 人 巻

い...

寄 信 者 巻

魚屋 巻

あつ...

寄 鍛 冶 巻

大系 久 巻

か...

寄 節 季 候 巻

佐倉 巻

せん...

寄 舞 葉 巻

魚 屋 巻

あ...

寄楽人恋

漢子屋人

君ゆきよりの試樂ものごとと運持樂のつびつちあや

あふ工恋

くまふれとわねるもあぬ君ハ枕子塵のはかりはひん

あふ細工恋

一文子白根

りーふ君うむのしらもりちまじりよものかいてけ

寄川越恋

かふのふあこ

九十川くよく物とせとせとあつあつものり車あ

寄米春恋

ちまういとみほよこあこさかちまういとあうつひるあ胡のそ

寄茶摘恋

りえの内子

つちもつらつちらよあふるあさつあつこの極ぞりハ

寄汗恋

かくせん坊目原

かくや中じ汗手拭とかいほ時へあつきりよりちいあてま

漢色屋人

まれとをちらふ汗ハ下とのこあゆるさひのゆけう

寄花火恋

あふ長橋河

あふ川の花火もあふりあんと出さる玉やとと

寄松栢恋

川水

うらとらのいけさあはらうらあふりあつとまらぬの

寄松竹堂

平中

松竹の姥よあまきつかりしあまのあんなきり
寄あま系不達意
及中世

あのかれとあま出るとまきつりあまのあんなきり
依よ推系を傳あまのあんなきり
口印
いとよあまのあんなきり
中世

うんごうとけいといふ声はこれよあまのあんなきり
あまのあんなきり
里通いのあま
志あつむ

あまのあんなきり
あまのあんなきり
あまのあんなきり
あまのあんなきり

あまのあんなきり
あまのあんなきり
あまのあんなきり
あまのあんなきり

萬載狂歌集卷第十四

雜歌上

あ合の中よ曉

平郡実栴

あさめしとらびのまわりやうらまことあつれはゆびあつま

麻穴

窓の戸とあけあけ方の目ささりて姿ハあまのあんなきり

あ合の中よ山

布多田造

あまのあんなきり
あまのあんなきり
あまのあんなきり
あまのあんなきり

あ合の中よ富士

急

あまのあんなきり
あまのあんなきり
あまのあんなきり
あまのあんなきり

信海翁

ついで天よのからけり人のまゝまゝいふやうの秘をい

よこくしん

おしどろくまのまゝいふまゝとまゝのまゝいふまゝいふまゝ

桶口冥月

東海子と名まきお山とゆき人のみよぬはし

兼唐鬼也

むしれとまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝ

盤多法師

やせ法師并まゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝ

浄少あらん

浄乳山

よきよあむく瓦の煙くらくらまゝいふまゝいふまゝいふまゝ

古せかりん

偶田川

まゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝ

十二要補

まゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝ

あけらん

あまおつあまのまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝ

軽少あらん

浅茅系

池の名の鏡のまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝ

おけら菱江

まをけさうねをあらうとちかや鏡、池のまよ
まをけさうねをあらうとちかや鏡、池のまよ
まをけさうねをあらうとちかや鏡、池のまよ
まをけさうねをあらうとちかや鏡、池のまよ

三橋岡蘆水

支玉のきよはゆる波ゆるひるや舟のふい路一目もらん
汝川の洲崎は橋濱の出来る時 よき人しほ
汝川ハ江戸よりちの浦あればよき由くとてゆきのほ
お合の中よ松
栗那実榊
まらある雨とをききかきまは六太松けやとくくは

百首おの中よ竹

如竹

竹の子ハおけやお汁のまらうまらうときり敷の仲光
お合の中よ
栗那実榊

お合の中よ園

大まよゆきをささくあるのちハまらうとけのうくお園
お合の中よ
榊口実榊

あれまらうお合の中よ
人くまらうお合の中よ

本母さしゆき

茶糸當あつていふとちあまの寺として今もかどちゆ

自画の傍り

三千風

女房あーみるかおとぞらさしゆかゆふとくまごのま

河さの画

かこ人ーん

世の人のおのれとあまおぢれてるがと女あびせるさ

善好法師の傍り

かしの本河

あつていふ世の人とあまのねとあまのあつていふ

盧生の夢のうらまゝの画とちうて久

うらまゝにおきうらまゝとちうてあつていふ

棠花あつていふとあまのつらあつていふ

雲繪松

一文字白根

さらくとあつていふとあまのつらあつていふ

うらまゝつゆ

さけらぬやうなる松のつらあつていふ

西行法師の傍り

ゆらあつていふ一樹のつらあつていふ

辨慶の讃

石原 信州

ちかをとけまよなるまむさう坊いさより出ていふ

猿猴の傍り

うらまゝつゆ

本末よく様々之を之よりりとのありのよにてとてとてと

安宅の事

其の事

美事よくある方のあつて勸を性としてくう山伏

竹の林よりとらふの事

よとこめて竹のうらとや出つたそれと時あるとらふの事

田舎うづらまありうらまあり

ちんちんいちくくうとまあり人田舎うらまありの時

省柏老人の證

其の事

一巻の古今集の事

あまのつらありあるはるをまを證とらして

静觀

あつたの富士の山にけつある事をうらまあり

芝きり通しを井所の事とらして

よこ人

を井所とてくの人をまありてあつてありの録のよき

中村の事

あつてあること

隅田中汲

尻からあつてつらきつとまう人

は百葉書

あつた事

百葉のちどろけくさ葉沼のんでゆらくしゆくおの徳

大工沼

と書しん

沼のちどろけくさ葉沼のんでゆらくしゆくおの徳

さうりちどろけくさ葉沼のんでゆらくしゆくおの徳

さうり

沼のちどろけくさ葉沼のんでゆらくしゆくおの徳

沼のちどろけくさ葉沼のんでゆらくしゆくおの徳

とあり

ありちのちどろけくさ葉沼のんでゆらくしゆくおの徳

青葉生

沼上

ちどろけくさ葉沼のんでゆらくしゆくおの徳

ある人のちどろけくさ葉沼のんでゆらくしゆくおの徳

青葉生

ちどろけくさ葉沼のんでゆらくしゆくおの徳

沼のちどろけくさ葉沼のんでゆらくしゆくおの徳

けら

沼のちどろけくさ葉沼のんでゆらくしゆくおの徳

ちどろけく

ちどろけく

ちどろけくさ葉沼のんでゆらくしゆくおの徳

ちどろけくさ葉沼のんでゆらくしゆくおの徳

ちどろけく

これと

あとのあつこ

あまのあつこからよみさらさうあつこあつこあつこ
あつこよりあつこを竹の筒よりぬきぬきぬき

あつこ中じ

あつこと一箇にぬきぬき竹のよのゆきのあつこあつこ
あつこのあつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこ

あつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこ

あつこあつこあつこ

あつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこ
あつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこ

あつこ

あつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこ

あつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこ

あつこ

あつこあつこ

あつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこ

あつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこ

あつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこ

あつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこ

あつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこ

あつこあつこあつこ

あつこあつこ

あつこ

~~~~~のあきりく〜りとあがりいかにきふらうまよ  
く〜とぬるま〜れうるま  
坂上竹藪  
うらぬらう

あゝまよやうま〜あ〜あのをよ〜お子とよと〜ら〜る海大志  
波まきり不動の堂のま〜る〜とよをう〜  
と〜と〜と〜  
沼上あらら

うら〜ら〜ら〜はやの〜ぬらみまきらぬまのよ〜  
ま〜ら〜のあ〜ま〜け〜り〜り〜は〜る  
あゝの〜り〜ま〜り〜  
親阿弥

この時にか〜〜は君とまつろ君をう〜子のよ〜ま〜く  
あ〜ま〜の〜の〜あ〜け〜ま〜言経あ〜の田所  
おん

の別荘ま〜〜と〜ま〜ら〜ま〜ら〜ら〜ら〜  
あ〜ま〜け〜と〜の〜あ〜け〜ら〜ま〜  
あ〜ま〜の〜ま〜ら〜の〜あ〜ま〜ら〜ま〜  
は  
中基  
あ〜ら〜ら〜ま〜ま〜の〜の〜あ〜ま〜と〜の〜  
碓吸の三郎  
中基  
子にあ多〜親仁の〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜  
ねと臨あるら〜ら〜の〜ら〜ら〜ら〜ら〜  
ら〜かの〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜  
ねと臨あるら〜ら〜の〜ら〜ら〜ら〜ら〜

うらうらうのまよとていつて へうと東地

四喜のあゝ匂勿落この中どにまゝのまゝとまゝの神あり  
高木をまゝあたまゝまゝをまゝとらゝまゝとまゝと  
らふまゝ松とまゝの里人のいららゝのまゝとまゝと  
りらゝ

をみつゝ淨瑠璃まゝとまゝのまゝをまゝつ風のまゝとまゝと

春秋音楽

計りつゝま

まゝ松とまゝの時とまゝとまゝとまゝとまゝとまゝと  
商人浮気

竹杖まゝのま

りらまゝとまゝとまゝのまゝとまゝとまゝとまゝとまゝと

うらうら

田中まゝの人

この調子まゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝと

時計とまゝとまゝと

歡流井原富

はんとまゝとまゝの時計一分とまゝとまゝとまゝとまゝと

まゝとまゝと

うらうら

作柄のうらうらとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝと

まゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝと

ときまゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝと

百菴

まゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝと

（下）

山家文房

梅旭

山更くゆく多樹のまんと諸人も仙人 嘉禎も千年

春草早く俳優のぶつれ画とて 菊の野うら

あちらのまををうける花をよいさかきとてへてをを

うらうらめれぬと掃除しけりて 万のまを

もねも子自才よりとてききおひげの塵はよりあき

こころりののちり

俵の小つら

と魚とさくらあまにあくまううき世のちうとまのさひり

田舎貞

花道はらふ

うらう春のぼろ秋の月ま姫中うくとなふり

萬載狂歌集 卷第十

雑歌下

おし

うら

あがもれあもあはれ煙をよようあき人のまり

けいある人のうらう山崎宗鑑ありと

うら

何となく人まをとけりあはれおめらひつ

けいある人のうらう利休居士ありと

百首文の中より山家

うら

松の代よりうらう家おのうらうと百なり入よりうら



大根をよ

借浅の山よはむオのちりるふニ季より外より人しほ  
こりくこのこらよきとよこみてうんのかよオのれつ

腑定

中くま山の奥よりま紫垣うき世とえとのきの松風

山家と味線

西釋似そ

さくふの糸乃きくし音さく雲井よりく山表の智

まふよかくれー ぽささみよ

懐翁

百々味咄二百々薪二米々米一分自燗の年のれれが

りらあらーしりーし

山家おあ

くわーいこらう坊まらうひさし人よりうて世とこらあ

まらる川のちりうららあ山家よりうら

あらーちりうらあけらまのうくとまいて

かしのすあ

ぶら年もちりうにさぬまらうてうへんけてうらうら

うらぬらあけらまらうからまらうら

あめの味ハ程とすれうて

魚作東伝

ま髪とあらー大根のうのを伴のまををらまぬん

うらあらーちりうらあけらまらうら



たじろ又のぬかひのあふにやまきよもあはくおぼさびしう

くは劔弓鎗の櫛よあふよふらしりし

高砂とほくしーもふふと 吉田氏

ら取きくやうてみろりと奥あーいつあまきうむるふやあり劔

百首あの中よ懐旧 如竹

従父従母もくこくんとてつやふふふここのおぼさふ

ふありせらの中よ 布多田造

形えしと今ふあしあねふきおのゆるうおふく 負之の祢

栗那実榊

りあへの酒友とらとあふねふ十人のあう九人あいらん

沖煙舟

従父ハゆく志もくくろくを才ハ老をむしくのを外 恋しき

脈定と

らんをうらーあふぬ赤草のむくくとろりよりるお

巻一とん 柏庭

生々、君てん駒とせむるふのりうりもこと花らうりもこと

けう、世子あふものまねるあり此集とあふ

おろ花名のほく祢かおのふりとまきてせらく

けり

りやふおとこらんと よし人

虫を紅玉のまじりて 蠅の蚊瘰癧 倭人とれもいやら  
けいある人のしりく 秋のる場をさる青  
らぶのよるるらんと

後斑とりやめのとやとて かゝ衣襟海

顔も手もめのことまじりてふらり卒のいさやていあて埋て

歯をさやちる時 葦唐鬼さ

今ハてあんとさいまりくはるしく瘰癧のおく歯をえて

痛くしうおるは玉川とらふふたり友とらり

あてとていふと 正交

あてわれははいーあめのさあひらねとてあく川のおある瘰

世の中をさるまじりていさりりるまじりて  
世をさるまじりていさるまじりて谷風瘰癧とらふ  
ありのまじりの風つよあつていさるまじりて  
あつていさるまじりて あけらまじり

うさふのこれら世まじりてさるまじりて園あつとよりつよまじりて谷風  
とらふまじりていさるまじりていさるまじりて  
あつていさるまじりて 白駒

あつていさるまじりてあつていさるまじりて瘰癧と福とらふけいさる  
ある人造瘰癧を月よふとさつてあつていさるまじりて  
あつていさるまじりてあつていさるまじりて 瘰癧丸

目もよろしきしつねにれとあつてはいつまで  
かきし 兼山

そららぬのたにまらぬもあつてあつてせうじ  
序のさとうきりるくのたつ さららのをねん炭

たつきうたふふきし たつきうたふふきし  
まきさつてみえうら たつきうたふふきし

やふ柳のやうど たつきうたふふきし  
たつきうたふふきし たつきうたふふきし

あふふ たつきうたふふきし  
たつきうたふふきし たつきうたふふきし  
あふふ たつきうたふふきし

樋口夏月

あふふ たつきうたふふきし  
あふふ たつきうたふふきし

あふふ たつきうたふふきし  
あふふ たつきうたふふきし

あふふ たつきうたふふきし  
あふふ たつきうたふふきし

あふふ たつきうたふふきし  
あふふ たつきうたふふきし

写る赤辰

風子のうた たつきうたふふきし

五

風子うた

雨あつて地も潤くする名もあつて風もよき福

傷者逢雨

腹可哀秋人

肱とまけくまゝつて走る俄雨傘は人にも其中あり

居りりの弓棚

竹杖を切る

いつかときもの征矢のまゝうらふおさるる竹書り

猿川

よこ人一人

たぬもの之節のまゝ引ありせ人よまゝの之をたぬも

梓と

山手白人

よりもこの梓のうをひきりれて百一升ハるゑがけ

起し

夢遊

あつては伏義神農かぬとも内ハ張介ひんを教習者

仙居不用

山巽え隣

古語のつく今とがこれにむよくまゝいへるは之ぬ

世の中百首の中

若木田子氏

とら子のうさりれあまのねも人のまゝのうせの中

ある人談とぬらまき

夏満丸

天下一大事のものとあつてまねて思ふはこれと説け

うらまき骨ちりつくねる

石於金名

かんたつて子あつるがひらひらかみまきぬこり

晴々天傘

かき衣摺海

下駄の音もかんなかききまらこのみら之日和さるるはつ

甲斐のま 淺中条とて下ふて菊の花さるる

こゝろをさるるはつ

よらふとききまつてもあはらぐさふんのかみ中条

巻十

京原大坂あしどい戸へまてさうあり町の中のさるる

紅のさるる

ゆらぶともよめやめがーのさるる緒うさのあしあはん

足駄の連入

きつさうのやまもさるるさるる波のあしあはん

あはれさるる知月の比宿をさるるあはれ  
かつらぎあきあはれさるるあはれ  
あはれさるる

久致

あはれさるるあはれの烟さるるあはれさるるさるる

家のあはれさるるさるる

大巻裏作

けさあはれさるるのさるるの火うらあはれさるるさるるさるる

火が切る

あはれさるるさるるさるるさるるさるるさるる

樋口裏作

さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる





しらぬいよけのちとちとてはゆかちなるよと  
まいてそのあこしよかりりて 卯ノヤ

あの傍さち中ぐ一物ありてくらぬあいけぬきみどりま

わなやれと製りてかかけはるて かしよあら

しらあふれとがらうのういれをくらうのういれをあら

つけあをかりの枝おろし

あしきふんつけあを枝おろし、猿のたのまのうもえん

わな式アの寺は周性ありるはさをぬれぬ

さうらふありてしらりすつらんとて

樋ノ実母

を遠き男子男はうもゆれま、和泉式部のお周性ま

ある人のゆくと其をうらまきりるよかゆのち

きくさうてふをさうりてぬ 小社

其とらうら子居る人きききとらうらうらゆくハアくらうらうら

ある人之書叟のけし一はししあうらうら雨の

うらうらぬ かつら糖漬

と書叟ありてしき雨あうらうらの天をわきおしらりゆ

灸とらやうら 子子孫孫

ちりけうらけんへき七九十二のまきまふ掃ハと里一ツ時

多徳園の百合女うかりの社うらうら

よ〜人ちれ多

よき波の始ゆりあねと赤〜々〜戸業乃のきら〜

雲〜

坂東六十夜

よきごのつ〜きちらま〜と〜り〜生解〜らよ〜

風石首翁の中〜

か〜のあ〜

筒ら〜ら〜風ありあや〜い〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

四方

守を光次

砂地〜の〜さ〜し〜ら〜ら〜の〜に〜た〜又〜を〜垢〜世界〜え〜ら〜ら〜

塵毛あ〜多

ち枝ちり〜ら〜ら〜梅の春〜れ〜が〜白〜い〜少〜舟〜西陣の砂汰

五折

富士初雪

今〜と〜は〜さ〜う〜い〜お〜撰〜れ〜去〜依〜入〜勝〜負〜ハ〜火〜あ〜ら〜う〜ハ〜あ〜る

守を光次

今〜の〜ち〜る〜未〜のお〜あ〜ら〜ち〜あ〜ら〜ら〜あ〜あ〜ハ〜火〜入〜あ〜ら〜入〜ら〜う〜せ〜ん

あ色

即ち年中世

ま〜漆〜の〜う〜ま〜赤〜飯〜つ〜あ〜さ〜を〜胡〜麻〜塩〜つ〜ま〜黄〜菊〜一〜え〜ん

守を光次

ま〜り〜や〜黒〜ま〜あ〜つ〜さ〜ら〜ら〜ま〜の〜葛〜や〜ま〜ま〜こ〜も〜ま〜つ〜針

雲〜

妻佳

大〜つ〜こ〜大〜こ〜ぞ〜ん〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

る載集をきくいりてきく 紀世を捕

るふふもる載集をきくいりてきく 紀世を捕

る載集の板をうらむ時 板元伊八

小法師のきく板の地のきくいりてきく 板元伊八

雑体

雑体

雑体

雑体

|     |     |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| あつた | あつた | あつた | あつた | あつた | あつた |
| あつた | あつた | あつた | あつた | あつた | あつた |
| あつた | あつた | あつた | あつた | あつた | あつた |
| あつた | あつた | あつた | あつた | あつた | あつた |
| あつた | あつた | あつた | あつた | あつた | あつた |
| あつた | あつた | あつた | あつた | あつた | あつた |
| あつた | あつた | あつた | あつた | あつた | あつた |
| あつた | あつた | あつた | あつた | あつた | あつた |
| あつた | あつた | あつた | あつた | あつた | あつた |
| あつた | あつた | あつた | あつた | あつた | あつた |





うきあらり 酒は目よえぬ 鬼ころり ありは熊坂法師の  
名はくせし ちかぬり けつねさるよこらとあはれん  
むさしひぢや 祈せぬきま ましはぬきえらつてみ  
うきあまの さうきま いちぢあはむらおさ乃  
をこらむさあ 山乃神一 ちかぬりさ ちかぬり出く  
あはれひなかり ちかぬりと ちかぬりあはせの中一上  
やれしとあはれ ちかぬり 山乃あはれ ちかぬりあはれと  
ちかぬりちかぬり 炭あはれと ちかぬりちかぬり ちかぬりちかぬり  
又奇

碎ちるを様子うらめしうらめしうらめし 小町のまはら

旋匠奇

一のうらめし

山名手字也

平家武者さし 山名のてらうらめし ちかぬりちかぬり  
九市判友あまうらめし

寄謡祝

うらめし

よふ時よあはむ小町やちのまのうらめし

すむやうらめし ちかぬりちかぬり

折句奇

小幡ゆりのおのの金まじくよあらの生れは  
ちかぬりちかぬり ちかぬりちかぬり

うらうらうらうらとあじやよい風味あつぽんぼりちぎりくつ

あめがけいといろしよめ文字を白の上におきて

農業のふとまよと人のいひぬれ 四ノ赤あめ

あつぽんぼりちぎりくつやき出ま秋はほみもゆきゆらぐま

あつ

あつぽん

あつぽん

こくま、うまことみれと小う目七八九十まりくつ

まなま

あつぽん

あつぽんあがつぽんあがつぽんあがつぽんあがつぽんあがつぽん

紀定丸

あつぽんあがつぽんあがつぽんあがつぽんあがつぽんあがつぽんあがつぽん

あつ

あつ

あつぽんあがつぽんあがつぽんあがつぽんあがつぽんあがつぽんあがつぽん

あつ

あつ

あつ

あつぽんあがつぽんあがつぽんあがつぽんあがつぽんあがつぽんあがつぽん

あつぽんあがつぽんあがつぽんあがつぽんあがつぽんあがつぽんあがつぽん

あつぽんあがつぽんあがつぽんあがつぽんあがつぽんあがつぽんあがつぽん

あつぽんあがつぽんあがつぽんあがつぽんあがつぽんあがつぽんあがつぽん

あつ

むらさきをみつはみ草名をまじし花さくをくははる

萬載狂歌集卷第十六

釋教歌

控戒一はう一はあ人のあうく海の新門を  
入じもまじい世いのわざをまよふらとまよふ  
ふあうらうあまみはうらわく名を川の  
おととさうらうまをけうらう

視阿弥

つる時をくりせのく名をう川今よりあふ入り身は  
口くせのあう一はうらうらう人もあや世の海に  
一はうまきう母家門の沙汰戒とらうらうらう



と祈るい一人の書よ一祀何縁とらる  
法号をさるるもく師資の繋りと  
はるる

師の語

世と村よ此をよそのつて法のみよふこゆみこの  
自画の像よ

よこ人しん

目いよる腰はうする蓮はゆるあをらとよふと  
はるる

拙筆法照

あうくと同一大宅の人を記といふもあうはるる  
はるる

はるる

あうかと同一の山よりとあうの法照のつもの書よ

百丈禪師の画

卯雪

七もや九も糸のかき海ものわちと直下にえちん百丈禪  
布代

花乃つふ

淨心寺とてあうのつみおふたあうつてはるる

はるる

あの中いあをよとあれ一布をら子煩悩とて即菩提

山白人

斗あ一扱あ手布をらあけあうらとて家あうれ

橋貞風

まん中よきんとはるるあうのがは基がらつのはれ

まは

ほろろまらりの人の歡喜乃堂といふよりるまは  
むすのま目まの不動るま

貸本人和流

この家のちよのまといふ不動るまといふまのせいこえら  
西國ねふままの歡世まままといふま

内匠半江守

かきまの縁起らるるまといふまのまのまのまの  
にうまの縁起らるるまといふまのまのまのまの  
ひまの縁起らるるまといふまのまのまのまの

まの縁起らるるまといふまのまのまのまの

法意(船)

いと背肩うまといふまのまのまのまのまのまの  
まのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

婆阿

挑灯の光り田といふまのまのまのまのまのまの

まのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

まのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

大山(ま)

兼あき

まのまのまのまのまのまのまのまのまのまの  
まのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

よのちの如業よましくさつて

又莫女

うねちのつこもあまのしけむに世の教みせの苦い

むしよのま身清もよあしこも世に西乃

世ささくし百の教もさるしよあ置せし

よの事おれがうらうらえよあれむ人よ

堂とうらなうらと

教もよ魚屋もあぬあましくも

お魚

うらうらうらうらうらうらうら

山田信成

りねきより佛船ころよむうらうらあまうら  
大きあぬらうの代りあまうけつらうら

大根をよ

考くちいとよの佛やいまらん後生のしあま

ある法師の説経をるとまうて

らう作のちくふせなよあもあうのこみあまのわらう

日史のやちやいあうらうらあまあ悲ふ

いづるまのともうら見る画よ

肉心の妙あまいあうらあぬらうのあまあ

可信佛をとりあうら

伊田可竹



神もさきとまきしてらぬやうならんみこときよさうよつらの

うと人ーらん

作代あぬや古くけまても酒のーりな家もぬもいかに

こねの室永二年酒の同じぬらせあまぬけ

まいる多き時よある人のよあまんとあんーり

つとくーる

こちろろ稲高社を納よま神祇 町長橋海

あまき田とこちろろの神くけて雨のうとすう物や

いふあま

みちろろこちあまーりぬのこあま、あまきとあまわさーあま

空米春神祇

かたわら綱

と白子あらきよこれ神あぬいまあまのこまね、あ

むさーのま目黒大まぬ神や 町方あま

け神よあまともまのあまーおくさま大まあまのあま

むさーのまこ田とよ里のままこいさーる社

まうけぬろく標干まうけ海まをぬまー

けーり社悟のあまーりてあままをぬま

かゝ衣掛例

あまこい盛出くつかまのまあねままりじこあまのまーお

村社田方

(九十三)

備いこち申の中申事よりと申すに

競る

申す

時よちん物も引く競るはかたの

かたの

今ハと汗とくじかたのまぢが

申す適世

かた

申す世と申すのまぢを今ハ

むさしのま江戸麻布志く山とい

ふ右あり申事とて大ききもの

申すはあり申事とて大ききもの

目と申すのまぢのまぢに

と申すのまぢのまぢに

申すのまぢのまぢに

申すのまぢのまぢに

申すのまぢのまぢに

まにまににからぬくしうり新のしんあくわいもほまぬ  
くちてまをくちるなりふちくぬまのうら  
んあけませいふちりちくとあわやまぬ  
このまのしんしんまのまの人のしん  
くちくちのしんあまのしん  
まのまのしんまのしん

かのまのしん

まのまのしんまのしんまのしん  
まのまのしんまのしん  
まのまのしんまのしん

福井里通

紀伊守

人目よりしんしんまのしんまのしん

大黒

地口守

大黒のしんしんまのしんまのしん

福祿寿

早守

福祿寿しんしんまのしんまのしん

早守

早守

らまのしんしんまのしんまのしん

早守

大徳守

井の往りしんしんまのしんまのしん

去つて

しりしりいさよまはらむるまのこいかにあまきまの

和歌之神

子女

何ぞもゆゑと和歌の浦波に歌とけくとの神

女の女

玉つしむのく人老任吉の名にありらま和歌の之神

夫德若玉萬載稱君茂宋而在焉尉殿之  
 番叟祝我等千秋將侍故鳴鼓之謠每年  
 之福大夫而振鈴之舞今日之祈禱也  
 新玉年始探李少君之玉不可得古鉄店  
 端選日無借之錢不可入裏白之紙屑以就  
 他捨他滿秋馬之洋塩子以書以集皆忘  
 串折之本盡虛持栗之下獲口謳歌繁於  
 玉葉之松湧臍笑語其於大福之茶蓋七  
 百餘首為卷十七為類十二一日春二日  
 夏三日秋四日冬五日離別六日羈旅七日



哀傷八日賀九日恋十日執十一日釋  
 十二日神祇板行已成卷數維新虎狼滿  
 雨不濕寸紙風吹勿吹風不散一枚長不  
 乘折原延幸免為淺差紙隨武勢世末度  
 遍於四里四寸因每波山御簀滿子八百  
 八町誠目出度候哉万載万載云尔  
 時天明三年歲次癸卯四方山人等序

かなる世のなまをば  
 ちとせりなまをば  
 とよみのなまをば  
 なるしなまをば  
 むねしなまをば  
 むねしなまをば  
 ちとせりなまをば

六のまゝにばいりてゐる  
 ちよつとあつたかゝる  
 ちよつとあつたかゝる  
 さういふかゝる  
 さういふかゝる  
 さういふかゝる

青藜閣發兌目錄

江戸東叡山 池之端仲町 須原屋伊八版

閱藏知津 藕益大師編次 佐伯書庫藏梓 北冊

四書集註 道春點大字 最勝堂新板 十冊

藕益大師宗論 成時輯 十冊

同 林家改點本 十冊

台宗二百題 再刻 十五冊

七經孟子考文補遺 世冊

法華四條論義 三冊

周易古註 魏王弼注 晉韓康伯注 五冊

大乘止觀法門 南嶽大師著 二冊

同 注疏 唐孔穎達疏 十冊

同 釋要 藕益大師述 四冊

同 正文 穀山先生校訂 三冊

放生功德集 六如上人編錄 和漢雜話三冊

鹽鐵論 漢桓寬撰 明程榮校 六冊

投子禪師語錄 李龍眠序 二冊

通鑑肇要 姚培謙平山 張景星二銘 同錄

證道歌直截 純者二線著 一冊

文子全書 南溟先生校 四冊

秩父圓通傳

三四野靈場  
縁起片力十本  
五冊

澤水法語

一冊

關尹子

白井真純校  
一冊

棠陰比事

宋桂四明著  
北山先生校  
三冊

熙朝樂事

明田汝成著  
明朝の年中行を記  
一冊

博覽言言

菅相公編輯  
古名管蠶抄  
五冊

林道春先生諺解  
諸子百家の書中より金言五句を抜き  
君道政事よりは通風俗に至り十三門に  
部を分けて書彩力格言と事多し

大清廣輿圖

赤水先生著  
五彩を以て十五省分  
一帖

唐土歷代州郡沿革圖

同著彩色  
初に禹貢圖を以て此の圖を次ぎ

禮記王制圖說

同著  
一冊

附千乘國考

別子五宗考

十二律三分損益考

歲星行度考

二十八宿星圖考

七曜右旋圖

新定儀禮圖

高田侯儒臣  
村松先生著  
二帖

枕草紙春曙抄

清少納言作  
北村季吟註釋

伊勢物語終傍注

加茂李應昌校  
二冊

侘も草傍注

南畝先生校  
二冊

同 諺解

南部草壽抄  
五冊

古人の注注多く八名名而己述を失  
初字願に文意を以てあきたる注也

袖珍假名遣

李鷹大人輯  
西面釋  
附録に制此詞を記し懐中の重宝とす

女誠

加倉井忠珍先生新註  
一冊

宋詩鈔

清張二銘編選  
四冊

元詩鈔

同選  
四冊

四溟詩話

謝茂榛著  
佐伯書庫藏梓  
二冊

北禪詩草

大典禪師詩集  
六冊

同 文草

同 文集  
四冊

介石遺稿

終南禪師文集  
二冊

小雲拙手簡四編

大典禪師八續  
一冊

唐詩平仄考

水府中月女淳著  
附録に律來南郭  
此詩文章の謬誤を論し分也

作詩志毅

北山先生著  
二冊

詩作の法をわし且李千麟と袁中郎の  
此詩異なるを論し附録に律來南郭  
此詩文章の謬誤を論し分也

作文志毅

同著  
一冊

文章の作りかたをわし本天と韓柳  
との文章の異別を審に論したる也

文藻行潦

同著  
三冊

文章の體を用ひし難言を伊呂波  
のくにし初學に便りす

經義我極說

同著  
近刻

經史摘語

澶州先生著  
二冊

經史の語を伊呂波分々にし初學  
文章探索に便りとす

撈海一得

同著  
二冊

因字隨筆にし初學博物助とす

佩文韻府兩韻便覽

琴堂先生著  
近刻

閑窻自適

純山先生著  
一冊

古学の大方を説き來た古学辭法作  
此事と國字を以て論したる也

將衣束拾要抄

二冊

同校正首書

二冊

内經知要

李士拔著

五冊

傷寒考

圖南山田先生著一冊  
傷寒論疑義を考證し他書記を張中景の事跡を何々々々

瘕狗傷考

原玄與先生著一冊  
病大療治奇方をあつ

三喜直指編

古河三喜翁著  
試驗療治本三冊

坂東忠義傳

三木成久翁述  
日本武術傳や十冊

訓蒙天地辨

高井圃我子述三冊  
天地の靈氣の事と事とを考へて解志や其上の諸圖を以て童蒙教養に用はるる

温泉考

原雙桂先生著一冊  
世の温泉の誠法を考へて其の善を以て先生の教を以て持病に損益の域を以て人を導く讀あきために平うれを以てくくく

非物氏

總海先生著一冊

名義備考

白經山先生輯四冊

會錫記事

台洲先生感著一冊  
むかし信を文素にむかし信を文素にむかし信を文素に

家註大學

大峯先生註一冊

大學中庸國字解

同辨二冊

孝子教

幼童祝年一考  
忠信の事や一冊

農隙餘談

信陽利根川氏著一冊  
農隙を以て教を以て孝順を以て教を以て孝順を以て

東山殿街香合

二冊

元三大師御匱鈔辨解

一冊

東海道旅人訓

各所聚貨并船賃  
等を考へて記す

古今碁經秘粹

四冊

古今碁經選粹

四冊

碁立結節

八冊

圍碁定石集

四冊

當流碁經類聚

素人名手三冊

素人碁經拾遺

三冊

江戸總鹿子大全

王華子述七冊

江戸砂子

菊岡沾涼輯六冊

同再校増補

丹治恒足軒補八冊

同續編

菊岡沾涼輯五冊

日光行程記

懷中折本

同安見繪圖

折本  
此は日光三道巨細之圖日光名物本道中本陣向及於賃付等々を記す

書札辨惑集

原氏作  
口傳集共三冊

萬載狂歌集

四方赤良  
明樂菅江同撰二冊

徳和歌後萬載集

同撰二冊

俳諧七加後也

芭蕉其角去來  
涼菴嵐雪大草乙由秀逸合集

同天狗問答

雪中庵二冊

同嵐雪文集

雪中庵一冊

同急抄乃おしき云武菴

一冊

同三傳戒

日一冊

分間江戸繪圖

新板さのり一冊

王羲之 曹娥碑 楷書

米元章 蕭間堂記 行書

中書楷訣 姜立綱 草書

烏石先生 愛蓮說 草書

同 翰林役牌 楷書

東江先生 草訣百韻歌 真草

同 飲中八仙歌 草書

同 和漢年代歌 楷書

同 三體唐詩選

同 小倉百首 萬葉假名

同 赤壁賦 行書

同 阿房宮賦 草書

天姥先生 千字文 行書

一山 禪師墨帖 品々

上田 孟春帖 素後筆

同 江戸往來 日筆

同 高賣往來 日筆

百體百人一首 吾妻鑑 後山流也

連玉百人一首 倭錦 源氏香園并引哥百首並大十二月異名和歌亦其外女子教訓亦あり也

女教小倉色紙 女教訓百首 二十六夜仙婚礼式法用文章源氏七夜 多し今川白字教訓の古外 婦人重法教訓多し西の志

女教萬寶全書 百人一首用文章 大冊本

女今川千金寶 小冊本

女用文章 福壽臺

長雄 龍田 耕雲筆

同 栢梁堂書札 日筆

同 鳴鳳帖 耕雲筆

同 今川帖 日筆

同 勸孝帖 鷗白齋筆

同 隨丈帖 日筆

同 明浦書札集 定考筆

同 和文章 日筆

同 四時通用帖 門人易合書

天の三癸卯歳子辰春吉日

徳和歌後萬載集 出来

狂歌拾遺 翻出

京柳子坊心糸下名本家

須原屋仕入店

大坂順安所五丁目

栢原屋与五郎門

大坂心被坊筋坊子所

栢原屋佐之坊

东叡山下地(為仲町)

須原屋八板

賞翫

賞翫

榮隆

